

ドクターに聞きました

日本は大腸がん大国！ 大腸がん検診を受けましょう

健康診断は、現在の健康状態を調べ、生活習慣病や各種がんなどの病気の予防・早期発見により早期治療につなぐ必要な検査です。私は消化器内科医として、食道、胃、大腸、肝臓・胆嚢・すい臓などの消化にかかわる臓器の病気の診断と治療を専門にしています。今回は大腸がん検診について説明したいと思います。

大腸がん大国になった日本

大腸がんは増加しており、2021年の統計では日本の大腸がん死亡率は、女性で第1位、男性においても第2位となっています。

大腸がんの環境リスク因子は、動物性タンパク質や脂肪分の摂り過ぎ、運動不足、肥満、喫煙、飲酒などといわれています。日本人よりも動物性タンパクや脂肪分を多く摂取しているアメリカは大腸がん死亡率が多く、かつて大腸がん大国と呼ばれていました。しかし、今では日本は

人口が3倍も多いアメリカよりも、大腸がん死亡者数が多いことが明らかになっています。なんと、日本は大腸がん大国となりました。

大腸がんが見過ごされる理由とは？

なぜ、アメリカの大腸がん死亡者数が減少したのでしょうか？日本の外科医師の手術の技術は世界に誇るものであり、決してアメリカに劣るものではありません。その原因については、アメリカでは50〜75歳の62・9%が大腸がん検診を受けているからです。一方、日本においては大腸がん検診の受診率は20%程度と報告されています。この差が、大腸がん死亡者数に影響をしているものと考えられます。

日本の大腸がん検診は2日間便を採取し、陽性の方が大腸カメラを受けるようになっていきます。しかし、もう一つの問題点は陽性の方の60%しか大腸カメラを受

けていないと報告されています。そして大腸カメラを受けた4%の方に大腸がんが見つかっています。つまり、せっかく検診を受けても大腸がんを見過ごしている方が多くなります。

大腸カメラを楽にする方法もあります

便潜血陽性となった方は大腸カメラ（内視鏡）を受けます。消化管のカメラは日本で開発され、診断と治療の分野においても世界をリードしています。将来がんになる恐れもある大腸ポリープや一部の早期大腸がんは、大腸カメラで診断し切除できます。

ところで、皆さん「大腸カメラは苦しい」というイメージがありませんか？過去に苦しい思いや、人から苦しかったと聞いて、大腸カメラを敬遠されている方には必要に応じて薬物を使い、楽に検査を受けることもできます。

健診で早期発見・ 早期治療につなげよう

日本における大腸がんの5年生存率は70%を超えています。早期大腸がんで死亡することはほとんどありません。進行した大腸がんにおいても、手術や抗がん剤治療を行えばほかの消化器がん（胃がん・食道がん・すい臓がん・胆道がん）と比べても治る可能性の高いことが解つていきます。

大腸がん検診を受けることは、早期発見・早期治療につながります。症状がなくても陽性になった方は必ず病院を受診され、大腸カメラを受けてください。もちろん、現在下血などの症状がある方は、大腸がん検診ではなく速やかに病院を受診してください。



医療法人
沖田クリニック理事長
沖田 聡 先生

日本消化器病学会専門医
経歴：東京医科大学卒業。
山口大学第一内科入局
(現 消化器病態内科学)。
2003年～小倉記念病院消化器
科副部長、2007年に沖田クリ
ニックを開院。



医療法人**沖田クリニック**
北九州市小倉南区徳力 1-10-3
TEL 093-962-3650